

[電気プラグからの出火]

- 1 出火日時 9月 8時頃
- 2 出火建物 住宅兼作業場 木造平屋建
- 3 火災程度 全焼
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、壁付コンセントに差し込まれたテーブルタップ（延長コード）の差込みプラグから出火したものです。

電気配線を差込みプラグ内で固定していたネジが長年の使用で緩んだことにより、電流の流れに抵抗が生じ、発熱して出火したものです。

出火した炎が配線被覆や差込みプラグの樹脂部分に燃え移り、柱や壁板へと燃え広がり、建物を全焼しています。



6 予防対策

現在、製品化されている差込みプラグの多くは右の写真のように一体化していて、内部で固定されて配線が緩みにくい構造になっています。

しかし、左の写真のようなネジ固定のプラグも使用されており、ホームセンターなどで修理用に売られているのはこのタイプです。

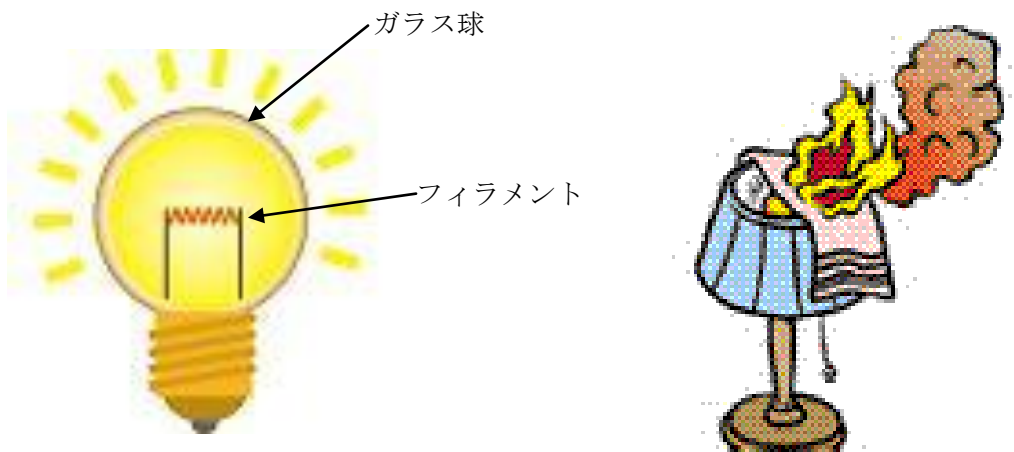
電気配線をネジで固定しているプラグは、使用状況によりネジが緩むことがあることから、定期的にネジの緩みを確認するようにしましょう。さらにすべてのタイプの差込みプラグに共通することですが、外観を確認してひび割れなどがあるものはすぐに交換するようにしましょう。

また、電気の専門知識のない人は、自分で修理や交換はせず、専門家に依頼するようにしましょう。

〔 白熱電球の熱で出火 〕

- 1 出火日時 1月 13時頃
- 2 出火建物 店舗
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、店舗内の棚の上に取り付けられたスポットライトの白熱電球に、近くに置かれていた装飾用のわら製品の一部が接触していたため、そのわらが時間の経過と共に熱せられ、出火したものです。



6 予防対策

一般家庭でもよく使用されている白熱電球は、電気エネルギーを光エネルギーに変換させる方法のひとつである「熱放射」を利用したもので、電球内のフィラメントに電流を通して白熱発光させることによって光を出します。

白熱電球を点灯させた際、フィラメントの温度は 2,000～3,000℃、ガラス球の温度は取り付け方法によっても異なりますが 100～200℃の高温になるため、紙類や布類といった燃えやすいものが接触すると出火する危険があります。

このことから、以下のことに注意しましょう。

- ・ 白熱電球は高温になるとの認識を持ちましょう。
- ・ 燃えやすいものが接触しないように気を付けましょう。
- ・ 転倒した際スイッチが切れるスタンドも市販されていますが、スイッチが切れても電球の温度が下がるには時間がかかることを覚えておきましょう。

[ハロゲンヒーターから出火]

- 1 出火日時 3月 9時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、電源端子部分に欠陥があり、発煙・発火のおそれがあるとメーカーが公表していたハロゲンヒーターをリコールになっていることを知らずに使用していたため、出火したものです。



正常な製品（表）

正常な製品（裏）

焼損した製品（裏）

6 予防対策

製造物は、製造の過程で検査が行われていますが、販売後に不具合が確認されるものも多くあり、この不具合による事故を未然に防ぐために、メーカーや販売元は「社告」という方法で広く一般の人に知らせます。

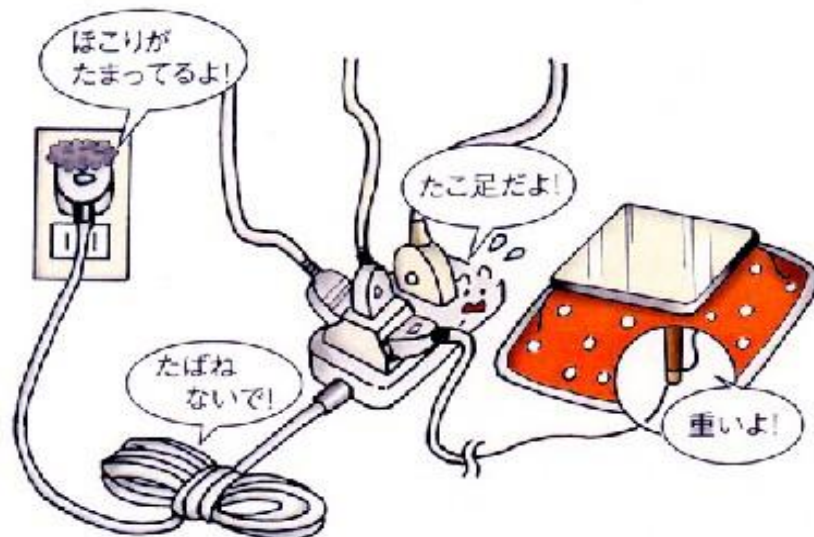
日頃から、新聞やホームページなどに目を配り、リコール対象になっている製品があった場合は絶対に使用せず、すぐにメーカーや販売店に確認しましょう。

[コードリールに過多の電流が流れ出火]

- 1 出火日時 2月 11時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、家庭の100Vのコンセントからコードリールを延ばし、コードリールのタップから2種類の電気ヒーターの電源を取り使用していたため、コードリールに過多の電流が流れ発熱・出火し、このコードリールと周囲の内壁等を焼損したものです。

電気ヒーターは消費電力が約1200Wと800Wのもので合計すると2000Wで20Aで使用していたことになり、コードリールの定格電流は12Aでしたので、定格以上の電流が流れていたこととなります。



6 予防対策

この火災は、許容電流以上の電流がコードリールに流れたため出火したものです。このことから以下の点に注意しましょう。

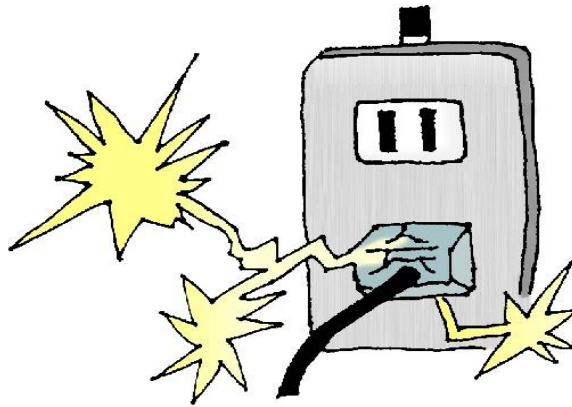
- ・ たこ足配線はやめましょう。
- ・ テーブルタップなどを使用する場合は、電気機器の消費電力を考慮し、許容電流以上の電流が流れないようにしましょう。
- ・ 電気コードを束ねると発熱しやすくなりますので、コードは束ねないようにしましょう。

[トラッキング現象により出火]

- 1 出火日時 5月 6時頃
- 2 出火建物 専用住宅 木造2階建
- 3 火災程度 ぼや
- 4 死傷者 なし
- 5 原因概要

この火災は、居室の100V壁付けコンセントにテーブルタップのプラグを差し込み、テレビ、ラジカセなどいくつかの電気機器の電源を取って使用していましたが、壁付けコンセントに差したプラグ部分でトラッキング現象が生じ、発火し出火したものです。

なお、プラグは家具の背部にあり、数年前から抜き差しすることは無くほこりがたまっていました。



6 予防対策

この火災はトラッキング現象により出火したものです。

トラッキング現象とは、長期間、コンセントにプラグを差し込んだままの状態で使用すると、コンセントとプラグのすき間にほこりなどがたまり、湿気を帯びたりすると火花放電が起こります。これが繰り返されると、その部分が炭化し絶縁状態が悪くなり、ついにはプラグ両刃間がショートし発火するという現象です。

トラッキング現象を生じないようにするには、コンセントとプラグのすき間部分にはほこりをためないよう定期的に清掃するようにしましょう。特に大型家電品の裏側など普段目に付きにくい場所などに発生しやすいので注意が必要です。

たこ足配線などのコンセントの増設も、その分トラッキング現象の可能性を増やすこととなりますから注意が必要です。

また、トラッキング現象を防止する部品も販売されていますので、そのような部品をプラグに取り付けるのも1つの方法です。